

あいたそその竹

出来るいことだ できるとうれしい

これほむりかもしれぬい

やめた方がよい

その方が 無事だ

と思ひ あきらめて べつとで 積になる

でも わしれさ わけでない

このまま ^{ほん} 隙が ぬけたま まで ぶりのかた

氣になつていふ

「エー」 「サ」 てみろ

と「カ」 「子」 が「エ」 は「な」 ね

玄冥まで行く

外はくらくをうていふ

ゆきの甲斐 じつちちぬれまふごねおと

スリッパをけきかき

ビ丁を ぎん

さあーとひどの 同

そんなニと 舞はして いけぬい

トア 石 思ひ あり ぬけ て 「フ」 エ ン 下 へ つかさる

竹の 方へ 右へ 行く 竹を ぶ 行く 花

うだ ありていゝ内付も、とただ

やつとの思いで ありていゝ内を、か↑↓

としやに 内に行々時付、↑↓しや付た

かす)に

かす)は 何ます

主向の↑↓を 申して 卜の 節く いまありた

の、て 廊下 けりた じか)に

ゆきで、か)予が↓ゆれてりゝ 頭もゆきだ

ゆれて もい

ゆゑしりた しゆる こと 不 去 来 ↓

出 来 たい

空ん)こ べつ け 入 れ

お ず ず ず

2023
3/10